

味を失ふことになつてしまふ、であるからこの固有の風俗を決して改めてはいけないといふのであつて、幾度もさういふ詔を出して、支那の文化にかぶれないやうにと力めて居る。太宗が亡くなつた後に立ちました天子が順治帝、これは大變年が少なかつた、その時に睿親王といふ太宗の弟が攝政をしまして、明の亡んだ後を承けて清朝を支那に立てたのでありますが、この人がやかましい法令を出して滿洲の風俗を漢人の上に及ぼした、かの辮髮令を出して、支那の人に皆辮髮せしめたのはこの時であります。

五

斯ういふやうなわけで、大體北方民族が支那に君臨すると成るべく支那の文化には心醉しないやうにといふことを力めて居つたのでありますが、それにも拘はらず、先に申し上げますやうな結果になつて、悉く支那文化に感化されるといふことになつてしまつた。斯ういふことはよく御承知の次第で、實は申上げる必要は無かつたのかも知れないが順序として極めて大略を述べた次第である。

所で多くの學者の説を見ますと、支那文明といふものは非常に根柢の深く固いものである、支那人は非常な保守主義である、この根柢の深い所の漢文明が保守主義の支那人に依つて保持せられて、古往今來變化をうけないで今日まで續いて來て居るといふ風に解釋して居る人が多いと思はれる。一應尤もな説と思ふけれども、必ずしもそういふ風にのみ考ふべきではなからうと思ひます。尤も私はその事に付て今茲に述べようとするのではないのであります、委しく申上げることが避けますが、所謂漢文明といふものは左程根柢の固いもの、言ひ換へれば古い時代